

秋田県横手市

素材研究
(国内)



見学可能な内蔵などが一斉公開される「蔵の日」の賑わい



以前は金物店だった観光物産センター「蔵の駅」。ガイドと歩く「まちなみ散策」では集合場所の一つとなります



横手観光の目玉となってきた「かまくら」(左)と人気の定番B級グルメ「横手やきそば」(中)、増田町の立ち寄り観光スポットである桜の名所「真人公園」(右)。地域の新たな魅力として、さらに「まち歩き」も加わることが期待されています



建物の土間を進むと現れる黒漆喰の立派な内蔵

江戸時代からの賑わい伝える商家群をまち歩き
建物の中に蔵があるユニークな景観も大きな魅力

秋田県横手市と10年前に合併した増田町では、江戸時代からの商家群を中心とする町並みが国の「重要伝統的建造物群保存地区」(重伝建地区)に選定され、「かまくら」「やきそば」に続く横手観光の目玉として「まち歩き」が注目を集めています。

文化的な価値の高さから重伝建地区に

横手盆地の東南部に位置する増田町は、旧羽州街道上の十文字から宮城県と岩手県の旧仙台藩領を結んだ「手倉街道」と「小安街道」という2つの旧街道の合流点にあります。人と物資が往来する流通拠点として発展してきたのが増田町です。

往時の繁栄を伝える伝統的な町並みや「内蔵」が多く残されており、その文化的な価値が評価され、2013年12月に重伝建地区の選定に繋がりました。

横手市商工観光部観光おもてなし課観光企画係の大友幸憲主査によると、地元商工会などによる「まちなみ保存」の取り組みは1990年代末から始まり、2005年に発刊された写真集「増田の蔵」によって、建物で覆った「二重構造の内蔵」が知られるようになったといいます。

2006年には、蔵の所有者による「蔵の会」も発足して、蔵を見学してもらおう

という機運が高まり、内蔵などを一斉公開する「蔵の日」も1年に1度、10月に開催されるようになりました。

「他人様のお宅にお邪魔する」斬新さ

江戸後期から昭和初期にかけて、増田の商人が成功の証として建てたといわれる内蔵は、主屋の後方に建ち、主屋と内蔵を接合する雪対策の「鞘建物」によって覆われているのが最大の特徴です。

増田町観光協会が管理する「蔵の駅」は典型的な内蔵で、店舗から裏庭まで一直線に土間が伸び、建物の中を歩いていくと黒漆喰の立派な蔵が現れます。

近世来の地割形状が残っているのも増田の町並みのポイントで、表通りは切妻造に下屋庇を持つ商家建築の顔を見せ、裏通りに回ると門や塀が並び、側面通りは100メートルにも及ぶ建物の奥行きを見渡すことができます。

増田町の内蔵は、現在も人が住んでいる建物の中にあるため、「蔵の駅」で当日に見学可能な家屋を確認する必要がありますが、逆に「他人様のお宅にお邪魔する」という感覚は、増田町でしか味わえない斬新な観光スタイルです。

観光おもてなし課の大友主査は、「近隣の観光地などを訪れるツアーで増田町に立ち寄るのは桜の時期くらいだが、内蔵を見る『まち歩き』で回遊性を高めていきたい」と意欲を示しています。